課題対応取組み報告書

名称	都島区地域包括支援センター
提出日	令和5年6月20日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	認知症と精神疾患を抱える方に対する支援について学ぶ ～支援者の思いが共有できる場づくりをしよう～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	令和2年度の地域ケア会議の課題として、精神障がいを抱えている方や家族の支援について支援者が対応に苦慮していることがあった。これを受けて、令和3年度は「こころの支援を学ぶ会」として3回の講座を開催した。参加者全員は参加してよかったとの感想であったが、参加希望者が新型コロナウイルス感染症対応で参加できない、人数制限がある、具体的な支援方法を知りたい、一人で考えるよりチームで考えることが重要、等の課題があった。令和3年度の地域ケア会議の課題では、 ・精神疾患を持っている方が65歳以上となり、認知症の併発、金銭的トラブル等、課題が複合化している。 ・気軽に相談できる場所や精神疾患を抱える方への支援について学べる場があまりない。支援者が孤立している。があった。	
対象	都島区の高齢者を支援している介護、福祉、医療の支援機関、地域の関係機関の支援者	
地域特性	都島区の南部。JR・京阪・大阪メトロの駅が複数あり梅田へのアクセスも良く、区役所や区民センター、警察署、消防署等の公共機関があり利便性が高い。南部は1号線が東西に通る交通量が多い。繁華街、雑居ビル、単身向けマンション、家族向け大型マンション、古からの戸建てや長屋が混在する地域である。徒歩圏内にスーパーがない地域があるが、全体的に商店街、商業施設、店舗、医療機関等が多い。長年住んでいる方が多く、転入もあるが、高齢者数は減少傾向にある。新しいマンションが建つ一方、築40年1000世帯のうち6割が70歳以上の高齢者というマンションなど、住民の高齢化が進んだマンションや集合住宅が複数ある。	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患に関する理解を深められるようにする。困難ケースの傾向を把握する。 ・支援者の思いを把握する。支援者どうしが交流でき相談し合える関係づくりを促進する。 	
活動内容 (具体的取組み)	<p>令和4年7月14日 精神疾患を抱える方の支援で困難となった複数のケースから課題抽出のケア会議を開催 支援困難となった要因を分析 講師：栄セツコ氏 (桃山学院大学) 参加人数15名。 支援困難となった要因を分析するとともに、精神疾患の定義、精神疾患とメンタルヘルスが保たれていない状態はあいまいであること、精神疾患は障がいが固定化されておらず、また、見えない障がいであるためアセスメントが難しいことを学んだ。また、アセスメントのために、支援者自身が生活歴などの背景を確認し、対象者の生活のし辛さ、支援者側が問題としてとらえている行動を理解すること、一人ひとり異なる障がいに合わせ、対象者の世界に入れていただくことが重要であると学んだ。さらに、精神疾患は5大疾患に挙げられるほど一般的で数も多く今後も遭遇する機会が増えることが予測され、支援者自身のメンタルヘルスを保つために、支援者自身ができること (知識をつける、相談先を多く持つ等) を学んだ。</p> <p>令和4年8月18日 「援助関係を作りにくい人への支援について」 第9回都島区介護事業者合同連絡会(平成30年度から実施している介護職と地域支援者の交流の場)にて 講師：清水由香 (武庫川女子大学) 参加人数62名(講師、30名はZOOM参加) 精神疾患を抱える方が支援困難な要因と精神疾患を抱える方への具体的な支援方法について共有した。個別の支援困難ケースに対しては地域ケア会議や精神保健福祉相談の活用を周知した。関係機関どうしの顔の見える関係づくりを通して連携強化を図るため多職種交流会を行った。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	アンケートでは87%の方が参加してよかったとの回答であった。主な意見として、「精神疾患のある方への支援について、関わり方・話の進め方が勉強できてよかった」「対話において否定せずゆっくりと話を聞く。問題解決を急がないことの重要性を知った」「問題に直面すると効率的に早く結論を出したいと思ってしまうがちになる。時間がかかってもいい、時間に耐えることが大事だとの視点が勉強になった」「支援者のペースで進めがちになるが、よりそいながら進めていくようにしたい」「複雑なケースについて、地域ケア会議や精神保健福祉相談などで支援チーム以外の意見を聴いたり一緒に検討したり相談すればよいことがわかった」「交流会で支援者どうしの仲間づくりができた」等であった。	
今後の課題	認知症や精神疾患などにより援助関係を作りにくい方は今後も増加し、支援は複雑化していくものと思われる。支援者の入れ替わりも多い職域であるので、今後も地域ケア会議や精神保健福祉相談などの個別相談・精神疾患困りごと共有部屋 (MSC) の案内や、多職種交流、支援者どうしの関係づくりを続ける必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5年 7月 19日 (水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	令和2年度の地域ケア会議から見えてきた課題「認知症だけでなく精神疾患も抱える方、家族への支援の困難さ」に対して、令和3年度から継続して取り組んでおられる。令和3年度では相談できる場、知識や支援の考え方を深める一定の成果はみられたが、「3回通じての講座への参加は難しい」「具体的な支援方法知りたい」「一人で考えるよりチームで考えることが重要」等の参加者からのニーズや令和3年度の地域ケア会議からの課題を踏まえ、令和4年度では2回講座を開催し、支援困難となった要因の分析や、課題をアセスメントする際の考え方、具体的な支援方法を深め、さらに多職種交流会を実施して関係者どうしの顔の見える関係づくりを通じた連携強化を図られている。PDCAサイクルを活用した継続的な取り組みとなっている。今後も精神保健福祉相談、精神疾患困りごと共有部屋 (MSC) の積極的な活用や地域ケア会議の開催、支援者が孤立しないために関係づくりへの取り組みを引き続き期待している。